

関係各位

高知県病害虫防除所長

令和 7 年度病害虫発生予察技術情報(第 7 号)

春に向けたスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策について

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)による水稻の食害は、移植直後から移植 3~4 週間後の被害が大きく、毎年欠株が目立つほ場が見られ問題となっています(写真 1)。令和 7 年度は、早期稲では県東部で平年より多く、中西部でやや多く、普通期稲では東部と中央部で多く、中西部で平年並でした(表 1)。

低温に弱い本貝は冬期の防除対策を行うことにより密度を低下させることができます。西日本の向こう 3 ヶ月予報では気温は平年並ですが、1 月は低い予報になっており、効果が高まることが期待できます。

前作で本貝の発生量が多かったほ場では次作も被害が増加する恐れがあるので、下記の対策を実施して被害の防止に努めてください。

記

- ・厳寒期の、土壤水分が少なく田面が硬いときに耕うんを実施し、越冬貝を破壊、低温にさらす事で本貝の密度を下げましょう。なお、本貝は深さ 6cm 以内で越冬することが多いため、耕うん深度は浅くても効果が得られます。
- ・未発生ほ場への本貝の持ち込みを防ぐため、使用後の耕うん機に付着した泥をしっかりと洗浄しましょう。
- ・前作で発生が多かったほ場では、春期(田植え前)の石灰窒素の施用が効果的です。

留意点① 水温 17℃以上になってから実施する。

② 稲に対する薬害を避けるため、散布から田植えまで 7 日以上空ける。

③ 石灰窒素は魚毒性が高いため、散布後 7 日間は落水や掛け流しをしない。

④ 窒素成分が含まれるため、元肥の量を調整する必要がある。

- ・凸凹があるほ場では、水深が深いところに集中的に被害が生じるので、できるだけ均平にしましょう。
- ・春期(田植え前)から取水口・排水口に 9mm 目合い程度のネットや金網を設置することで、越冬した個体の本田への侵入を防止することができます。
- ・その他

スクミリンゴガイの防除対策の詳細については、農林水産省が公開するマニュアル等(<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>)を参考にして下さい。



写真1 スクミリンゴガイによる食害で欠株が生じたほ場

表1 令和7年度の水稲におけるスクミリンゴガイの発生面積

地域	早期稲				普通期稲			
	栽培面積 (ha)	発生面積(ha)		平年比 (%)	栽培面積 (ha)	発生面積(ha)		平年比 (%)
		令和7年	平年			令和7年	平年	
東部	619	309.6	216.7	142.9	365	273.7	181.5	150.8
中央部	3,329	1,165.1	1,588.4	73.4	1,202	267.1	180.3	148.1
中西部	649	370.9	326.4	113.6	2,140	295.2	272.2	108.4
西部	1,193	104.4	305.4	34.2	774	162.5	254.8	63.8

お問合せは、病害虫防除所(TEL：088-863-1132)または環境農業推進課(TEL：088-821-4861)まで